

令和6年度 学校評価				
本年度 重点目標	1. 全校生徒の学力向上【授業最優先・分かりやすい授業の展開】 2. ICT教育の強化 3. 授業改革と教員の授業力向上 4. 挨拶と礼儀を重んじた明るい生徒の育成 5. 校内環境の整備 6. 姉妹校との高大連携と進学促進 7. キャリア教育とインターンシップの強化 8. 部活動の活性化と強化及び安全管理と事故防止 9. いじめ防止対策、長期欠席者の迅速な対応 10. 教員の生徒募集に関する意識の向上 11. 教職員としての意識向上・健康管理、教職員間の信頼関係 12. 地域との連携・交流の推進 13. 生徒・保護者との信頼関係構築 14. 新型コロナウイルス・インフルエンザなどの感染症の感染予防			
担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
教務	・学力向上	基礎学力指導の実施	B	実力試験は事前課題を配布して宿題としたり、動画を視聴する課題を出したりして対策をすることができた。 研究授業は新任の先生を中心に行っていたが、授業アンケートは実施できなかった。 手引きは内容の古いものもあり、今後検討、改訂作業が必要となる。次年度の課題としたい。 教務の書類は保管期間を定めて定期的に破棄をしており、整理されている。
		実力試験の有効活用	A	
		学習習慣の定着	B	
	・授業改善の取り組み	研究授業・授業アンケートの実施	C	
		校内研修の実施	A	
		教科会の活性化	B	
		教務内規等の検討・策定	A	
	・業務の効率化	手引等文書類の充実	B	
		教務倉庫の整理・整頓	A	
情報管理	・学内コンピュータネットワークの 運営・保守・管理を行う	ネットワークの保守・管理	A	ネットワークに関しては校内LANの整備・点検を進めている。サーバー類に関しては、障害が発生したときに早急に対応して復旧させた。新規システムの検討・更新についてはBLENDなどのシステム改善に取り組んだ。機器やシステムの保守・管理を行い、それに伴いマニュアルなどが作成された。配信メールの利用は各種保護者連絡に活用されている。ホームページにおいても日々更新されており、外部に鮮度の高い情報を提供している。
		サーバー類の保守・管理	A	
		情報機器の保守・管理	A	
	・情報機器の活用のための ガイドライン・マニュアルの整備を行う	各種ガイドライン・マニュアルの作成、整備	B	
		一斉配信メールの活用	A	
	・既存のシステムの活用および 更新の検討を行う	ホームページの活用	A	
		新規システムの検討・更新	B	
総務	・校内環境の整備	設備・施設の管理・営繕および正しい利用法の啓発	A	設備・施設の管理・営繕に関して、年度末には、美化担当者を中心に全教室の空気清浄機の洗浄、フィルター交換等を実施した。また、外部からのお力も借りながら、特にトイレ・廊下・階段の美化に努め、校内環境の衛生面に配慮した。 移動教室の際にエアコン切り忘れのある教室があり、電力超過となることが時折あったため、来年度以降はそのような事がないように呼びかけていきたい。 式典に関しては表彰式の形態や、卒業式のレイアウト等を例年とは少し変化させた。今後も生徒・保護者・職員の感想や意見を聞きながら、改善していきたい。避難訓練に関しては、来年度に向けて起震車の予約がしてあるが、実際の災害に即した訓練をしていく事を目標とする。
		校内の設備充実	B	
		ゴミの適切な分別と環境美化の徹底	A	
	・衛生的な校内施設の利用啓発	廃棄物の減量とリサイクル意識の向上	A	
		適切な備品・消耗品の調達と修繕	A	
	・経費削減の啓発および具体的な実施	経費節減(省エネ・節約)	B	
		式典の計画・実施及び改善	A	
	・非常時における危機管理意識の向上	次年度行事予定の見直し・調整	B	
		実践的な避難訓練の計画・実施	B	
進路指導	・進路への位置づけ	各学年に適した進路ガイダンスの実施	A	国公立大学への進学者が1名おり、3年連続で、現役生の国公立大学への進学者をだすことができた。進路ガイダンスは、3年学年団とも協力し、コースごとに担任進達のスタイルで実施した。姉妹校の名古屋産業大学、経営短期大学へは、全体の1割強の生徒が進学したが、名古屋ウェディング＆フラワー・ビューティ学院への進学者はいなかった。ブライダル業界への魅力を学内で広める機会の必要性を感じた。菊武ビジネス専門学校への進学者が1名おり、この流れを今後も続けていきたい。進路指導室の適性診断を利用した生徒もいるが、今後さらに周知していきたい。キャリア教育では、職業講話の取り組みとして、ハローワークのキャリア探索プログラムや教員主体の取り組みをすることができた。インターンシップは、企業展で関わりを持つことができた企業で実施することができ、地域とのつながりを広げることができた。
		『進路の手引き』など内部・外部の情報誌を有効活用	A	
		保護者対象進路説明会などでの進路情報の提供および姉妹校入学の特典の周知	A	
	・進路未定者の減少	職業観を高めるためのインターンシップの実施	A	
		キャリア教育の推進	A	
	・姉妹校への入学者増	入試改革に向けた情報の提供と対策強化	B	
		各学年、担任による複数回の個人面談の実施	A	
	・正社員雇用内定率の向上			

担当分掌	重点目標	重点項目	評価	評価結果と課題
生徒会	・行事の円滑な運用および主体的参加者の増加	コロナ禍での学校行事の在り方を考えるとともに、より多くの生徒が学校行事に主体的に参加することを目指す。	A	生徒会では、多くの生徒が参加できる学校行事を目指すとともに、学校行事を通してリーダーシップのとれる人材の育成と社会貢献を目指した。 文化祭では全校生徒でペットボトルキャップを集め、各クラスでマリオのキャラクターを作成するKIKUKAマリオワールドを作成。集めたキャップをワクチンに変えることで社会に貢献することができた。生徒が環境保護活動に関わることで、地球規模での課題に対する関心が高まって行くことを期待したい。
	・生徒会活動と各委員会の活性化	週一回の生徒会定例会と、生徒会新聞の発行による情報発信と生徒会研修生・実行委員の積極的な育成と生徒による自治組織の運営	B	
	・部活の活性化	持続可能な部活動への予算配分による部活動の活性化	A	
	・ボランティア活動の推進	あいさつ運動や校外美化清掃やボランティア活動への参加	B	
生活指導	・常に菊華高等学校生であることを自覚し、行動できる生徒を育てる	挨拶の励行、ルールの遵守、基本的な生活習慣、安全指導等、生徒の社会性の向上を図る	B	守山警察署が実施した「交通安全無事故無違反200日フリー」に参加し、本校は目標を達成することができました。今後も、生徒への交通安全啓発活動を一層強化し、安全意識の向上に努めてまいります。特に、自転車利用時の安全性を考慮し、ヘルメットの着用率の向上を目指して取り組んでいきます。 また、本校では、日頃のHR活動に加え、交通安全講習、薬物乱用防止講習、デートDV防止講習、いのちの講話 など、外部講師による講習を積極的に実施しています。これらの講習を通じて、生徒が交通ルールの遵守だけでなく、健康や人間関係の大切さを理解し、他者を思いやる心を育むことを目指しています。今後も、これらの取り組みを継続・発展させ、生徒一人ひとりが安心・安全に過ごせる環境づくりに努めてまいります。
	・交通安全指導の充実	自他の権利を理解し、お互いに思いやり共生する心の育成	B	
健康管理	・日常の健康観察	保健室の利用状況の把握	A	利用状況を把握し、担任と情報共有・連携をとり対応を行えた。次年度もきちんと担任に返していき生徒の心身の健康管理に繋げていく。 新年度に感染症罹患時の治療証明書提出をBLENDで配信したが、周知の徹底が行えていないことがあった。次年度はきちんと周知する。 カウンセラーの活用は、担任も巻き込み生徒の支援に繋がっている。今後も継続し連携をとり活用していきたい。
		新型コロナウイルス・インフルエンザなど感染症対策に関する対応について	B	
		カウンセラーの活用	A	
渉外	・募集定員の入学者数(特に推薦受験者)確保	各学科・コースの入学者数増加	A	今年度の募集より特色入試を取り入れた。受験者数は少なかったものの入学者を確保することができた。その関係もあってか、入学者数は予定していた人数をはるかに超えることができた。その要因としては、中学生・保護者対象の体験会や説明会などの行事に昨年度よりも多く参加していただけた、本校のことを知っていただけたことが大きかったと思う。また、一般入試での入学者数(歩留まり)が例年になくたくさん入学していただけた。しかし、入学者数は増加したものの、受験者数は昨年度より推薦は微減、一般受験者数は80名程の減であった。やはり、入学者数を安定させるには推薦受験者数の確保が必須である。そのためには、本校の特色である、多種多様な学科・コースの魅力を、行事の際に中学生や保護者、中学校訪問での中学校の先生方にPRしていくことが大切である。また、学校案内やホームページ等のPR活動を今後も継続して実施していきたい。
	・渉外行事の充実	推薦(特別専願含む)および一般受験者数増加	A	
		学校体験会・学校説明会等の行事への参加者数増加	A	
		行事参加者(満足度)からの受験者数増加	A	
	・募集アイテムの充実	学校紹介&学校体験会フライヤー・学校案内パンフレット等の充実および活用(各学科・コースのPR強化)	A	
		認知度を高めるためのホームページの充実	A	
いじめ防止対策	・日常の観察	アンテナを高く持ち問題を感じたら、学年主任へ報告。学年で問題を精査し、必要であれば、いじめ防止対策委員会へ報告	A	問題発生時の備えは十分にできているが、SNSでの問題発生が多くみられるようになっているので、その発見が難しくなっている。 各担任、各学年が早期に問題を発見し解決にあたったので、大きなトラブルまでには発展しなかった。スクールカウンセラーとの連絡を密にし、ご指導を仰ぎながら問題の解決にあたった。 今年度は4月にクレベリン検査、2学期と3学期に各1回のアンケートを実施した。アンケート内容の再考やアンケート方式の変更など、生徒が率直にいじめやハラスメントに関する意見や考えを表現できることを考えたい。
	・問題の緊急性に関する対応	激しい誹謗中傷、暴力など早急な対応が求められる事案に関しては、即いじめ防止対策委員会を招集し、対応を協議	A	
	・アンケート、スクールカウンセラーの活用	問題の全貌を知るためにアンケートやクレベリン等を実施したり、スクールカウンセラーとのカウンセリング活用で被害者、加害者共、心のケアにつとめる	B	
事務	・サービス部門と位置づけ、内部・外部に対しサービス精神をもって業務に取り組む	電話・来客対応を通して学校のイメージ向上への貢献内外に対する親切で行き届いた対応	A	・電話、来客対応等については、常に迅速かつ丁寧な対応を心掛けることができた。
	・事務室と職員室との連携強化と相互協力の推進	確実な情報伝達(ホウ・レン・ソウ)をモットーに、組織のスムーズな運営への寄与	A	・教員と事務職員との間で、相互に連携協力できるよう努めた結果、大きなトラブルは発生しなかった。
	・公的補助金獲得の最大化	就学支援金・授業料軽減等の対象生徒の申請100%達成補助金制度に精通し、的確な申請にて取りこぼしを防ぐ	A	・公的補助金については、生徒に対する就学支援金・授業料補助金はもとより、体育館の空調機補助金の獲得に努めることができた。
	・予算管理の的確化	学園全体の制約の中で、学校経営に依る予算の立案及び適切な執行管理	A	・令和6年度予算については、国・県の補助金を獲得できるよう学園本部との緊密な連携を図り、臨機応変な対応をとることができた。
	・出納業務の標準化・効率化	校費・PTA・後援会・同窓会等の申請・出納・実績管理の標準化・効率化	A	・校費等の出納業務については、正確性の確保を重点として取り組むことができた。
	・積立金管理における的確な対応	学科別・コース別・個人別に積立金の執行管理を行う中で、的確な対応を行う。	A	・積立金管理については、学科別・コース別・個人別に管理しているため、個々人の状況に応じて事務処理が複雑となるが、的確に対応することができた。